

森本ひのき様

副学長の太田です。このたびはメールをいただき、ありがとうございました。

まずは、森本さんをはじめ、本学の学生みなさんには、これまで、長期間に渡って、本学の新型コロナウイルス感染症防止対策に協力していただいていることに感謝します。

森本さんのご質問は、特に2年生の皆さんの代表的なもので、その裏側には入学以来の辛く苦しい胸の内について共感できるもので、感慨深く拝読させて頂きました。

ご意見をいただいた今回の発出文書は、学内では一時期ほどの感染者がいなかったことから、様々な制限を緩和していきたいと考えていたところでしたが、ここにきて大型のクラスターが発生してしまったことで、課外活動に参加していない学生も対象に、残念ながら発出を余儀なくされたもので、決して積極的に発出したい文書ではなかったということをご理解ください。車の運転に例えるならば、アクセルを踏んでいるときに、急ブレーキをかけなければいけない状況になったということです。

さて、いただいたご質問について以下の通り説明を含めて回答させていただきます。

1) 「茨城県からの指導の内容」について

本学は常に茨城県の関係部署及び本学の医療関係者から情報を得ておりますので、その中で本学に対して本学の状況を危惧しているという意見が寄せられたもので、その意見を踏まえて、今回の通知を発出したものです。

本学の考え方の大前提として、筑波大学は国立大学法人として国からお金をいただいている大学ですので、国民に対して様々な義務と責任を持つことが求められています。また大学は、教育・研究に加えて、社会貢献や社会とのつながりが重要視される組織です。その点から見ても、本学は、つくば市にあり、茨城県にある大学です。つくば市の人口（24.3万人）に対しても、19.8人に1人は本学学生数（1万2300人）です。最近のつくば市の感染症患者数（24日197人、25日192人、26日186人、27日195人、28日140人）はいずれも県内最多で、茨城県内の感染者数の10%以上の日が続いています。28日、茨城県は大阪府よりも多い日となりました。

「行政指導」には法的拘束力はないとされますが、このような多くの観点からも本学は国や県からの指導を無視することはあり得ないことをご理解ください。

2) 発令の目的について

「4月に新入生を安心して迎えらるよう」とした点へのご質問ですが、コロナ禍における私たちのミッションは、本学を構成する、学生・教員・職員が一体となり実現していくものと考えています。中・長期的には、安全で安心に充実したキャンパスライフや教育研究活動を送っていただくようにすることです。そして短期的なミッションとしては、大学行事の中でも重要な行事である卒業式・修了式を無事挙行することと考えていました。4月に新入生を迎える入学式については、今から在学生の皆さんと一緒に準備をして、安心して新入生を迎えてあげることが、私たちができる最大のプレゼントになると考えました。

「学生の不利益」という言葉を聞いたことがあると思います。「大学からの要請を守っている学生が損している」という声があることも知っていますがそのように考えるのは間違いです。

私は、コロナ禍においては、キャンパスをロックダウンさせないことが「学生の利益」であると考えています。この利益は大学から与えられるものだけではなく、学生の皆さんにも「作り出すことができる」ものと考えています。私たちの中での「学生教職員の命の危機」とともに最悪のシナリオである「学生の入構禁止」は、学生の皆さんにとっても避けたいものとして同じだと思います。そうならないためにもアクセルとブレーキを状況に応じて踏み替える必要があるのです。

3) 文化系・芸術系課外活動団体が実施する「自主公演」と「大会等」の解釈と個別のガイドラインを制定することについて

まず私たちは前提として「活動を規制して安心している」のではなく、むしろ「どうしたら活動できるか」という観点で対応を考えていることをお伝えします。その一つとして、課外団体として活動する際にとるべき手続き（「特例許可申請」等の提出）において、守るべき感染症予防対策が盛り込まれていれば、個別審査を経て「許可」をしています。「大会」については、感染症予防に対してガイドラインを持っている学外団体が開催しているものは「参加できる大会」としています。

誤解を恐れずに言えば、感染には、本人も周りの人も「納得できる感染」と「納得できない感染」があります。前者は感染症予防対策をとったにも関わらず感染してしまった場合、後者はそれらを怠ったことが原因と考えられる場合で、学内外からの苦言苦情があった場合、弁明は困難です。

「ガイドライン」についても、皆さんのご提言があればお知らせいただきたいと思います。何れにしても「わかりにくい」というご意見は今後の参考にさせていただきます。

4) 通知を出すタイミングについて

これは永田学長をはじめとして私たち教職員が、25日の卒業式・修了式をオンラインではなく学生のみなさんに会場に来ていただくかたちで実施してあげたいと考えていることが大きな理由になっています。

森本さんの学年は、そのような点で、入学式もきちんとできなかった学年であったと思います。それは新型コロナウイルスに対する対応について、国はもとより私たち教職員も初めてのことで、戸惑うことばかりでしたが、2年目を迎える頃から対応ができるようになったことも事実です。

以上、取り急ぎ回答と私の考えを記しました。

私も40年以上も前の大学時代の同級生や教員はもとより、クラブ活動（サッカー）で得られた先輩や後輩との出会いやその後の交流は、私の人生でも大きな「財産」になっていることを実感していますので、現状は本当に学生の皆さんは気の毒だと言いたいようがありません。また私は現在、本学蹴球部の副部長も務めていますので、教員や部員たちからの賛否両方の多様な意見も耳にしているつもりです。不自由な課外活動を強いられている中でも懸命に活動する部員たちには心からエールを送っています。

2022年3月29日

学生担当副学長

太田 圭